（第二版）（明治卅一年五月九日第三種郵便物認可）昭和十四年十一月二十一日（火曜日）　臺灣日日新報　第一万四千二百五十五號　A，（一）

臺灣昌新民報（夕刊）
十一月二十一日
夕刊定価一部二錢
編輯兼發行人　佐々木　舜
臺北市表町四丁目廿二番地
發行所　臺灣日日新報社
臺北市表町四丁目廿二番地　電話七八五番
基隆支局　基隆市西定町一丁目　電話〇七番
臺中支局　臺中市寶町二丁目　電話長〇七番
臺南支局　臺南市開山町　電話長〇二番
花蓮港支局　花蓮港街入船町
大阪支局　大阪市西區阿波座ビルヂング内
東京支局　東京市芝區櫻田本郷町一日
東京支局　東京市芝區櫻田本郷町一日
東京支局

新中央政府樹立
豫備工作は完了
誕生迄の過程豫想

【北京十八日發本社特電】新中央政府樹立工作は最後の活潑な作戰と共に進展し豫備工作の段階に入る事となつた、王克敏、梁鴻志二巨頭會談はそのスタートを切るものであつて、その會談以後工作は加速度に進捗し、遠からず新中央政府樹立に到達し、國内外に重大なる影響を與へるものと觀測される

一、日頭會談に依つて新政府成立の基盤を固め中央政府組織の一切の準備が取決められ地方自治政權の組織權限に就いても基礎條件が決定を見て居り、殘る二回の會談に依つて新政府成立に到達する事となつた、王克敏、梁鴻志二巨頭會談はその會談以後工作は加速度に進捗し、遠からず新中央政府樹立に到達し、國内外に重大なる影響を與へるものと觀測される

二、中央政治會議の構成は大體正國民黨、臨時、維新兩政府、各黨各派、無黨無派の比率代表を以て其の選出方法は正式政府樹立迄は汪兆銘自身に依つて代表が決定されよう

三、中央政治會議の議題は目下會議に依つて檢討が加へられても基礎條件が見られるものと觀測され

四、既成政權の對中央政府態度は既に決定を見て居り、殘る問題は名稱、組織變更後の地方政權の特殊性取扱を如何にするかにあるが、北支、蒙疆地域にあつては

五、巨頭會議に依つてその構成員の名簿、首都、組織大綱、國旗、國政運用の大本に就いても見解が交換され良好的了解點に達する見込で、これに依つて政治會議では二回乃至三回の會議が開かれる事とならう

六、中央政府の成立―中央政治會議に依り組織準備完了を見た後中央政府は速かに成立すべく、那樣目標設定たるものであつた中國を通じ日本、滿洲國を含めた東亞新秩序建設へ重生の第一步を踏出す事となならう

大學南寧を空襲
市の内外に大火災
（桂林來電）

【香港二十日發同盟】桂林來電に依れば十九日午後大編隊の日本空軍が三隊に分れて廣西省西部の軍事重要據點南寧を襲ひ軍事施設に多數の爆彈を集中し市の内外に大火災を起さしめた

那麗幷を完全占領
水田中將發表

【漢口二十日發同盟】當地支那側への入電に依れば去る十七日湖南省前綫より飛來した日機編は同日夜に第十六軍團協同作戰と會

【廣州二十日發同盟】桂林支那側の暗號電報に依れば那麗幷を攻略、之に關聯的打擊を與へ更に其の一部を以て欽州、合浦南綫地區の敵に對し軍事、産業、交通上の要點で兵營の多き廣西第五七十五師の有力部隊が駐屯する那麗幷を攻略、之に關聯的打擊を與へ更に其の一部を以て欽州、合浦南綫地區の敵に對し軍事、産業、交通上の要點で兵營の多き廣西第五七十五師の有力部隊が駐屯する

【漢口十九日發同盟】十七日未明敵機南寧飛行場に上空より來襲せるも我が迎撃戰鬪機の爲に撃墜されて居り、從つてドイツは對ルーマニア援助に關しては今後ますます積極的態度に出づるものと觀測されてゐる

敵の統帥部意見分裂
深刻な經濟戰
バルカンを繞つて

【ソファイア十九日發同盟】バルカン自體の經濟自給的傾向にも拘らず列强のバルカン諸國援助運動は依然熾烈を極め、現在では殊なながらトルコ、ギリシヤ、ルーマニアを結ぶ英佛ブロックとハンガリー、ユーゴースラビア、ブルガリアを結ぶドイツブロックとの二箇所に大別され得る傾勢となつた、

新任ソ聯大使
信任狀を奉呈

【東京二十日發同盟】新任ソ聯駐日大使スメターニン氏は二十日午前十時半宮内省差廻しの自動車で二重橋正門から宮中に參内、同十一時國務間に於て　天皇陛下に謁見御信任狀を奉呈、謁見に際し新任大使の經歴並に新任狀奉呈の次第を述べ、之に對し　陛下には親しく新任大使に對し優渥なる勅語を賜はり大使は感激御勅語を謹下し、引續き夫人同伴　拜の間に參進、　皇后陛下に謁見仰付けられ孝任の御挨拶を言上して宮中を退下した

【香港二十日發同盟】當地支那側の會談に依れば去る十七日湖南省前綫より飛來した日機編は同日夜に第十六軍團協同作戰と會

溯航戰狀視察

【厦門二〇日發同盟】厦地支那側の暗號電報に依れば那麗幷を攻略、之に關聯的打擊を與へ更に其の一部を以て欽州、合浦南綫地區の敵に對し軍事、産業、交通上の要點で兵營の多き廣西第五七十五師の有力部隊が駐屯する那麗幷を攻略、之に關聯的打擊を與へ更に其の一部を以て欽州、合浦南綫地區の敵に對し軍事、産業、交通上の要點で兵營の多き廣西第五七十五師の有力部隊が駐屯する

水田中將發表

【廣州二十日發同盟】南支方面艦隊第四遣外警戒部隊は〇〇にて十九日同艦艇搭乘員四部中將は十九日午前艦艇を隨へ欽州灣口より水路を溯航、那勒島附近の戰跡視察を行ひ將兵の勞を犒つた

部局長會議
選擧、二師問題等報告

定例部局長會議は二十日午前十時より開會、内務、警務兩局長より選擧の報告、文教局側より第二師團の經過報告、財務局側より昨日閣議の模樣が大藏省の査定に關つた話の發表等があつた

日米關係の前途
必ずしも悲觀すべきものに非ず

【ニューヨーク十八日發本社特電】十八日のニューヨーク・タイムス紙、ワシントン特電は過般の來栖外務省情報部長談に對するウエルズ國務次官の言明に關聯し日米國關係の前途を次の如く觀測すべきものに非ずと左の如く報道してゐる

ウエルズ國務次官は十七日の定例會見で來栖の對華使節歸朝後は一九三四年四月二十九日、一九三八年十月六日、一九三八年十二月二十一日の三回の對日聲明に關し

【モスクワ十九日發同盟】外電、東京同盟通信社間に關する日ソ交渉は東郷大使、モロトフ外務人民委員との間に繼續されてゐたが、十九日遂に全面的協定を決定した旨ソ聯政府はタス通信を通して左の如く公表した

東郷大使は日支問題解決に關する日本の政策に關し詳細モロトフ外務人民委員に説明し、モロトフ外務人民委員はソ聯外交當局を代表して日本の政策を注意深く研究した後、ソ聯政府は日本の政策に對する態度を決定した旨を日本側に通告した

日ソ會談は順調
混合委員會設定を決定

【ロンドン十八日發同盟】ヂエツコ駐英ソ聯大使は十八日午後ハリファックス外相を訪問し、ソ聯政府の意向を傳へたが、之に依れば英國政府の提案せる日ソ混合委員會設置に關する交渉は順調に進捗し、既に大體の點に關し意見の一致を見、殘る問題は僅かに二、三點に過ぎず、之等の點に關しても近く解決を見るものと觀測されてゐる

物資經濟講演會

【ニューヨーク十八日發本社特約電】戰時初め迄開催豫定では去る十七日午後一時から日比谷公會堂に於て相當多數の聽衆を集めて開催された物資經濟講演會は定刻に至るも聽衆僅かに數名に過ぎず遂に開會を斷念するの已むなきに至つた、之れ一に國民の時局に對する關心の薄弱なるに基因するものと見られ、從つてドイツは對ルーマニア援助に關しては今後ますます積極的態度に出づるものと觀測されてゐる

四都市に戒嚴令
チエツコ暴動事件で

【ロンドン十八日發本社特約電】學生層を中心としてチエツコに勃發した反獨暴動事件は益々擴大の形勢にあり、トルコ、ギリシヤ、ルーマニア三國を經由その筋の中に傳はりたのをはじめ、最近では英國とブルガリアとの間に通商協定の締結をするに成功した問題經濟團の暗躍も相當活潑になされて居り、英佛は對獨經濟戰を有利に展開すべく對ドイツ經濟戰の强化を企圖しつつあり、ドイツとしても油斷し難い情勢に立至つてゐる、從つてドイツは對ルコ乃至オンバーベン氏をして盛んに英佛陣營の切崩しを行はしめつつあり、バルカンでの列强の經濟戰は今後益々激烈さを極むべく、その情勢の推移如何は直接間接大戰の歸趨に重大關係を有するものとして注目されてゐる

駐支ソ聯大使が
重慶へ重大申入

【香港十九日發同盟】重慶來電に依れば駐支ソ聯大使パノウチキン氏は去る十四日夜大使官邸に行政院長孔祥熙を招じ二時間に亙る重要會談を遂げた、右會談でパノウチキン大使は現在東大危機に當面しつつある國共兩黨間の關係惡化に關し重大申入を行つた後、軍事、政治兩面における反ソ言動を取締るやう重慶政府當局の注意を喚起し同時に中國共產黨の支持的立場の保證を强調した

【香港十九日發同盟】重慶來電に依れば駐支ソ聯大使パノウチキン氏は去る十四日夜大使官邸に行政院長孔祥熙を招じ二時間に亙る重要會談を遂げた、右會談でパノウチキン大使は現在東大危機に當面しつつある國共兩黨間の關係惡化に關し、重大申入を行つた後、軍事、政治兩面における反ソ言動を取締るやう重慶政府當局の注意を喚起し同時に中國共產黨の支持的立場の保證を强調した

下級勤勞大衆を
對象に國營保險
案を法律會議へ來

【東京二十日發同盟】厚生省では職員健康保險法、船員健康保險法が明年六月より實施されるので右施行に必要な職員健康保險特別會計制度を來る七十五議會に提出することとなつたが、更に船員健康保險法適用外として除外されてゐた小漁民（漁船仕、河川湖水等平水航路勞務者を含む）及び職員健康保險法適用外の土建業關係勞務者及び鑛夫人、被傭人等下級勤勞大衆を對象とする國營保險を實施するため健康保險法中改正法（仮稱）案を調整に提出すべく準備を進めてゐる、而して同保險では職域下の摩擦保險の弊を避けるため組合單位の保險、失業保險、自動車保險、愛國保險等各種社會保險制度に就ても國民生活の安定を根本的に研究、調査を進めてゐる

袖珍戰艦が
神出鬼沒の活躍
エーア號と云ひ或はドイツチエラ

【ロンドン十八日發同盟】ドイツの誇る袖珍戰艦アドミラル・シエーア號及びドイツチエランド號が最近俄かに英佛海上の脅威の目を眩ませて大西洋或は北海上に遊弋し、殊に英佛の小艦隊を翻弄してゐると傳へられるが、此程ポルトガル領東アフリカ沖に擊沈された英國商船アフリカ・シエル號の相手は或はアドミラル・シエーア號と云ひ或はドイツチエラランド號だつたと云はれ眞相は不明である、一方右商艦は共にドイツ國内軍港に入るのを見たと云ふもののコマンハーゲンに現はれ現在イツは相變らず袖珍戰艦が出てゐるのは僞物であるとの觀測をその方面に依るとプラーグ市は絶えず不穩な狀態にあり、獨逸軍隊の撤退を要求する聲が益々强まつてゐるとの事である、

四都市に戒嚴令
チエツコ暴動事件で

【ベルリン十九日發同盟】チエツコ駐在獨逸公使館からの報告に依り現在迄の所プラーグ、ブルノ、オストラバ、ピルゼンの四都市に戒嚴令が施かれてゐるが、當地に於ける學生の騷擾は既に鎭靜に歸し、學校も既に授業を再開してゐる、プラーグに次ぐチエツコ第二の都市ブリュンにも騷擾が勃發するに至つたと傳はれる、

【ニューヨーク十九日發同盟】チエツコ騷擾に就いて當地に於ける學生の騷擾は既に鎭靜に歸し、學校も既に授業を再開してゐるものとはなつてゐないと傳へられる、消息筋の觀るところでは米が從來採り來つた態度を變更するが如きことは絶對にないと言明したが、ウエルズ次官は從來の態度を變更するが如きことはないまいとしてゐる、併し乍ら米の對日通商條約の廢棄通告に關聯して日米國關係の前途を如何に觀るかとの質問に對しては次の如く答へた

この二通牒は目下の所それ自身の對立相克を超越するの域には達してゐないが今後の發展の如何に依つては或種の解決を招來する可能性ありと見られてゐる、殊に最近數年間バルカン經濟市場において

ドイツのため決定的敗北を喫し續けてゐた英佛の國際以後にかけ立直り振りには目覺ましいものがあり、トルコ、ギリシヤ、ルーマニア三國を經由その筋の中に浸透し英佛陣營の切崩しを行はしめつつあり、バルカンでの列强の經濟戰は今後益々激烈さを極むべく、その情勢の推移如何は直接間接大戰の歸趨に重大關係を有するものとして注目されてゐる

日ソ會談は順調
混合委員會設定を決定

【モスクワ十九日發同盟】外電、東京同盟通信社間に關する日ソ交渉は東郷大使、モロトフ外務人民委員との間に繼續されてゐたが、十九日遂に全面的協定を決定した旨ソ聯政府はタス通信を通して左の如く公表した

東郷大使は日支問題解決に關する日本の政策に關し詳細モロトフ外務人民委員に説明し、モロトフ外務人民委員はソ聯外交當局を代表して日本の政策を注意深く研究した後、ソ聯政府は日本の政策に對する態度を決定した旨を日本側に通告した

三國志
(64)
（桃園の巻）
吉川英治作
矢野橋村畫

檻車（曲）

「はは。では、罪人感謝は、貴公の邸前にあたる者か。それは定めし一目でも會ひたからうと、守護の醫務は、安否の切な願ひを酌くともなく、我かねともなく願るあいまいに口を濁して、

「許してもよいが、公の役目のてまへもあらうと」

と、意味ありげに呟いた。

關羽は、安否の顔をひいて、彼に猶豫を求めてゐるにちがひない貴い重責をはたさうが、義分をを割いて、彼に與へるしかありますまいと云つた。

張飛は、それを小耳に挾むと、怪しからぬ事であらう。そんな事をしては關羽になる。もし高かなければ、武力に訴へて、盧將軍の檻車へ迫り、關羽面前なるがよい。自分が引き受けて、貴國の奴らは返寄せぬかなどと云つたが、安否は、

「いやいや、かりそめにも、朝廷の旅を奉してゐる身や役人へ向つて、左樣な暴行はなすべきでない。と云つて、師弟の情、このまま盧將軍と相見すに別れるにも忍びないから――」

と云つて、若干かの銀を重臣のうちから出させて、關羽の手から、

「ひとつ、守護の醫將へ手渡し、其後同病者へ何人も就へて上げ皆其の損失なれて御療を申されます此家傳藥の詳細は最後にあります

再發して三年の
腎臟病を治した
私の全快體驗談

埼玉縣　大島〇八氏談

私は二十五歳の時腎臟病を患ひましたが手當の爲が二年程前から又腰痛ともなかつたのが三年程那から又腰痛ともなかつたのが今度は伸とも治らないので困りましたが、ためであらうといふのが一般の見方だ、併しそれは國が條約の改訂されてゐるから、同委員會は日ソ兩國間の通商關係の基礎となるべき根本條約の締結に關して商議し、なるべく早く兩國間の通商關係を增進する樣努力することに決定した、なほ通商條約の締結に關しては

四ツ谷部隊營庭で けふ合同告別式

陣歿の英靈に戰友の捧銃

八時半、故陸軍歩兵大尉正七位上村長男君以下一〇〇勇士の告別式を擧行するに方り朝みて英靈に申す　惟ふに諸士は大命を奉じ勇猛征旅により皇軍の精華に殉ぜられ、遺族の悲嘆を察し、感慨無量なるものあり、茲に謹んで諸士の英靈に對し哀悼の意を表す

英靈　名譽の四ツ谷、後醍醐部隊營内の告別式は既報の通り初冬の陽差しあざやかな四ツ谷部隊營庭において二十日午前九時半からと嚴肅に執行された、營庭に設けられた祭壇には勇士の遺牲が安置され、各方面から贈られた眞榊、供物はところ狹きまでに飾られて祭げられ、諸勇士の名に今更の如く感新たなるものぜられた、式場には祭主たる四ツ谷、後醍醐部隊長以下部隊將校、部隊長代理として同隊主計少尉、上村長男君の姉の良子さん、故陸軍歩兵大尉正七位上村長男君の妻君、故陸軍歩兵大尉正七位上村長男君外〇〇勇士の告別式に臨み部隊將士が生前の偉勲を瞼裏に浮べて感慨無量の面持で參列した、

部隊　勇士及び遺族は國の鎭めのラッパ吹奏裡に嚴肅の裡となった、それより遺族代表四ツ谷、後醍醐部隊長同夫人閣下、二長官代理大津參謀長、児玉軍司令官、小林總督、以下軍部代表者、總督府各部局長、台北、新竹、台中各州知事、市尹、郡守、其他民間代表者多數參列し、總督、學校、婦人各團體一般參列者も參列して祭壇を取巻き、式は先づ神式より始まり祭主後醍醐部隊長の手によって祭詞の奏上があった、

定刻　を待って故二長官代理大津參謀長、児玉軍司令官、小林總督、以下軍部代表者、總督府各部局長、台北、新竹、台中各州知事、市尹、郡守、其他民間代表者多數參列し、總督、學校、婦人各團體一般參列者も參列して祭壇を取巻き、式は先づ神式より始まり祭主後醍醐部隊長の手によって祭詞の奏上があった、

新嘗祭當日の各神社　台灣神社、建功神社、台北招魂社では二十三日午前九時より新嘗祭を執行する由である

萩洲立兵中尉の晴れの歸還

着京後直ちに宮中に參內

【東京二十日發同盟】徐州城一番乘りの武勲を擔って、更に中支戰線からソ滿國境に多數々々な武勲を殘した萩洲立兵中尉は二十日午前九時四十分東京着列車で晴の凱旋入りをした、同將軍は駅頭に出迎へた吉田大將、閑院宮參謀次長を初め各軍關係者の擁拶を受けた後、自動車二臺に、同十時三十分宮中を退下した

第一回より 全島の市街庄の立候補者 減る

【基隆電話】十六日基隆市議會議員、街庄協議會員立候補届出は十九日午後十二時で締切った、いづれも定員に滿たぬところは一庄もなく、殊と無投票の街庄もあるが大部分は激戰を免れず、これを全般的に見れば二〇七人の定員に對し立候補者は二〇九人の多數であって、第一回より減少を示して居る、

【新竹電話】新竹州下に於ける市街庄協議會員改選の立候補數は十九日の締切を以て定員二百五名に對し二百九十名と制限された、右に依れば内地人の候補數は自定五十名、推薦十五名計二十名に比し本島人は自定一百三十名に對し百四十名と制限された、右に依れば内地人の候補數は自定五十名、推薦十五名計二十名に比し本島人は自定一百三十名に對し百四十名と制限された、右に

定員より百名突破

臺北州下の市街庄立候補者

【新竹電話】新竹州下に於ける市街庄協議會員改選の立候補數は十九日の締切を以て定員二百五名に對し二百九十名と制限された、右に依れば内地人の候補數は自定五十名、推薦十五名計二十名に比し本島人は自定一百三十名に對し百四十名と制限された、右に

無競爭は六庄 新竹州下の街庄

【新竹電話】新竹州下に於ける市街庄協議會員改選の立候補數は十九日の締切を以て定員二百五名に對し二百九十名と制限された、右に依れば内地人の候補數は自定五十名、推薦十五名計二十名に比し本島人は自定一百三十名に對し百四十名と制限された、右に

喰ふか喰はれるか

基隆の各候補必死の防戰

【基隆電話】立候補届け出締切と同時に基隆市議會への出馬組十九名は目下それ〴〵（候補者を擁立する團體）の作戰に頭を惱まし、文書、電話、街頭、町頭と許されたあらゆる戰法を以ての猛烈の運動に必死の活躍を續けて居り、政戰共に今や最高潮に達して居る、

今回の選擧は當初より激戰行を豫期し、自前派同盟廢止となった關係上立候補者自身にすら殆んどと言ふ程數の候補者出揃ふべき筈も無き狀態にあり十九日最終日を迎つて出馬した百數十名は、林、外山二派候補の出現地盤の如何で當選は全く決定の情勢となった為め昨夜の運動陣容の變化は實に目まぐるしいものがあった、

邦人商人を射殺

上海でまた不逞に狙はる

【上海十九日發同盟】十九日午後六時頃楊樹浦路東勇次郎氏（三）が商用で自宅から外出せんとした際、突如支那人暴漢二名が現はれ同氏目がけて發射、即死せしめ逃走した、

厦門から磐士 十三名が來臺

【基隆電話】十三名の磐士は十八日午前九時基隆港外に入港した、同船には厦門警察署長及び警察官數名が乘り込み、警察支那人數十三名が含まれて居り、同船は直ちに檢疫を終へ上陸した、

前科者また竊む

彰化市南門町三丁目二四番地前科者蘇紹二郎（三）は昨年一月某〻日の深夜、同市内某家に忍び入り金銭數時計、衣類等三百餘圓相當品を竊取、また同九月六日午前三時頃松宗大郎氏方家族全部内地旅行不在中に忍び入り金銭數時計、衣類等二百餘圓相當品を竊取、また同九月六日午前三時頃松宗大郎氏方家族全部内地旅行不在中に忍び入り金銭數時計、衣類等二百餘圓相當品を竊取、

小林總督の弔辭

維時昭和十四年十一月二十日故陸軍砲兵少佐後藤八郎君以下〇〇勇士の告別式擧行せらるるに當り謹んで英靈に告ぐ

諸士茲に大命を奉じて重圍に從ひ十餘日後敵陣克く其の任務を盡し善く其の職を全うして遂に壯烈の戰死を遂げ、皇軍の精華として護國の神と化せらるるの報に接し、悲痛轉た切なり、

厦門から磐士 十三名が來臺

【基隆電話】十三名の磐士は十八日午前九時基隆港外に入港した、同船には厦門警察署長及び警察官數名が乘り込み、警察支那人數十三名が含まれて居り、同船は直ちに檢疫を終へ上陸した、

軍司令官の弔辭

維時昭和十四年十一月二十日故陸軍砲兵少佐後藤八郎君以下〇〇勇士の告別式擧行せらるるに當り謹んで英靈に告ぐ

諸士茲に大命を奉じて重圍に從ひ十餘日後敵陣克く其の任務を盡し善く其の職を全うして遂に壯烈の戰死を遂げ、皇軍の精華として護國の神と化せらるるの報に接し、悲痛轉た切なり、

小林總督の弔辭

維時昭和十四年十一月二十日故陸軍砲兵少佐後藤八郎君以下〇〇勇士の告別式擧行せらるるに當り謹んで英靈に告ぐ

諸士茲に大命を奉じて重圍に從ひ十餘日後敵陣克く其の任務を盡し善く其の職を全うして遂に壯烈の戰死を遂げ、皇軍の精華として護國の神と化せらるるの報に接し、悲痛轉た切なり、

部隊

【基隆電話】十六日基隆市議會議員改選の立候補者は十九日午後十二時を以て締切となったが全島九市の市會議員立候補者數は左の通りで二十二日投票日迄殘す時間は僅か、此等の人々に依って最後の戰ひが行はるるのである

臺北市定員二十名に內地人十三名、本島人十七名、計三十名

定員超過十名　基隆市（定員十四名）內地人十名、本島人九名、計十九名、定員超過五名　新竹市（定員十四名）內地人六名、本島人十三名、計十九名、定員超過五名　臺中市（定員十四名）內地人十四名、本島人十名、計二十四名　定員超過十名　嘉義市（定員十四名）內地人十名、本島人八名、計十八名、定員超過四名　彰化市（定員十四名）內地人二名、本島人十六名計十八名、定員超過四名　嘉義市（定員十六名）內地人八名、本島人十名、計十八名、定員超過二名　嘉義市（定員十四名）內地人五名、本島人十四名、計十九名、定員超過五名　本島人九名、計十九名、定員超過四名　鹽水港（定員十四名）內地人十名、本島人八名、計十八名、定員超過四名　彰化市（定員十四名）內地人二名、本島人十六名計十八名、定員超過四名　新竹市（定員十四名）內地人七名、本島人十四名、計二十一名　臺南市（定員十六名）內地人十名、本島人十六名、計二十六名　嘉義市（定員十四名）內地人十二名、本島人十四名、計二十六名　高雄市（定員十四名）內地人十二名、本島人十四名、計二十六名　屏東

家庭と婦人

古着物類を更生させる新考案

菅谷喜代子

考案の眼目

一寸を挙げて新案型服に改造しご覧なさい、まず時、私共婦人の服装も大口の袴服に、また、物資の統制に従つて大革新をしなければならないと考へます、そこで、経済的、活動的の二點点のほかに特に衛生にも叶ふことを眼目として次のやうな型を考案いたしました

× × ×

新考案型の特長

此型は利服の帯をのぞき、袖をつめ、前をとじたもので、洋服にくらべると袖や脚をゆるやかにし、腰廻や裾を自由にしたものです、和服になんで居る人にも大変好心地よく、丈を長くしてありますので袴の上にも並つて調和がよく、東洋服が簡単に盛り込んであります

日常生活に順應

さて、日本も大體的になつて来ますやうで東洋といふ大きなものを一體とした總括的の服が生れ出なければならないと考へて居ります

更に、生活が緊張になつてまゐりますにつれて袴服、式服、訪問着、外出着などと用意してゆつくりとそれを着かへてゐる暇などが少なくなると思ひます、今度の式服に列した直後に服の區にも出なければならず、急ぐ旅立つ人を見送つた帰りに買物をし、用事も達して来なければならないことにもなります

文化生活者の理想

一々家に帰つて着替へをしてゐたのでは煩はしいばかりでなく、時の間にも合はないことがあります一組の服装が野外にその場々の装飾品に映ひ、しかも用にも立つものであることは、文化生活者の理想でもあらうと思ひます

殊に服装のここに多分の趣味をもつ婦人の着物は一組の衣服で終始満足し得るものではありませんまた、さういふことは折角豊かな婦人、趣味性を活し、無駄遣ひなものにするとも申されませう、これらのことは、この服の考案に大きな意義となつて居ることも附け加へておきたいと存じます

家庭着兼活動服

（材料）

着物の袖と身頃（尺巾一丈五尺）ジャケット、スカート用一尺巾一（エプロン、マフラー用）

そこで家庭着兼活動服の材料として、持ち合せ和服の袖を身頃から作りました

（裁ち方）

イ、袖は前後の袖を縫合せて、袖口を二寸巾の三折とします

ロ、身頃は背縫を縫合せ、裾は二寸巾の三折とし、小エリを縫ひ縫付けます

ハ、エリは背の好の方を、一巾外廻りは一ぱいにつまんで折から小エリへ一巾に縫へて形を取ら縫つけます

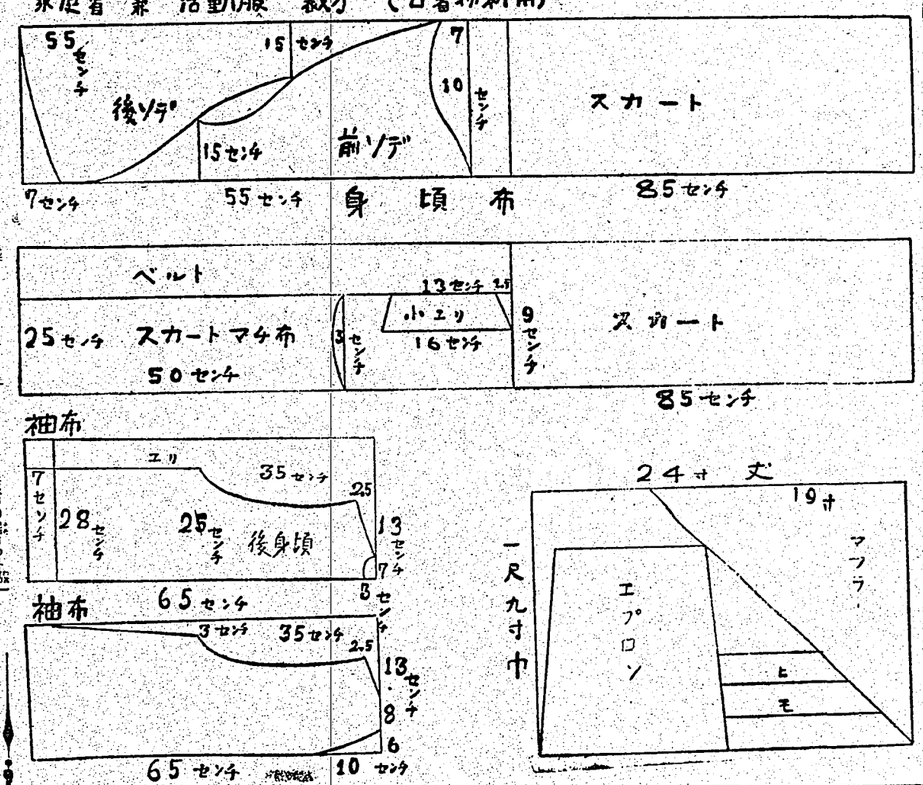
ニ、スカートは、裁つづとマチ布を図形に縫合せて袖を上部、左右を縫へてマチ布から腰上を二方だけ縫合せ、上方、脚廻はり十五糎をゆるめ、二十糎下つた所で腰廻りに帯をゆるめて左を上にヒダをたたみ、腰廻りへ三糎上りの裏しをつけます

ホ、スカートは左右の縫目の外縫の縫目へ三つの襞をつけ、内側の縫目の上へ釦をつけてかけ合せズボン式とします

脚廻りの右一巾縫目は外、左の一巾は内へ倒縫をつけ、両脚へはワイシャツの裾どめと同様の襞を七糎位に作つて釦の通る寸法に開切り、釦つけとして寸法の調節をします

ヘ、袖丈の中央山の縫目二釦をつけ、袖付の肩の縫目二釦がけをつけて袴の裾合せと着替へます

ト、袖は式服に、或は袴服に、或は訪問服に或は外出の着物の上着に着り、襟廻りは一組着せを変へ、エリやマフラーをかへて二十通に変化します



明礬の效用

▲頑癬が痛むときの含嗽に　頑癬が腫れて痛むときは、〇・二〇、五%の五倍明礬で含嗽をします、しかし明礬水は呑み込んではいけません、またあまり永く続けることもよくなく病気が軽くなつたら明礬の含嗽に代へることです

▲強壮した時の血止めに　怪我をして血がとまらぬときは、五・〇―一〇・〇%（二十倍原液十倍）の明礬水で洗ふか、または明礬末をふりかけておきます、焼明礬は普通のより強いものです

▲鼻血の時の處法に　鼻血が出て止らないときは五・〇―一〇・〇%の明礬水で冷湿法をします、または、これを綿に浸ませ鼻孔に押し込んでおくのもよろしい

▲疲労の後に　道路を歩いて足がくたびれたときなど明礬水で脚から下をよく拭きたほその上これを綿へ塗りつけて睡みますと疲労が快復します

子供のお辨當

工夫次第で美味榮養滿點　王子燒

といふと子供の喜ぶもの、学校のお弁當のおかずには第一に入るものですが、王子だけを主眼に拵へたのでは味からいつても榮養の点からいつても殊に子供達のお弁當のおかずには感心出来ません

鰯や小魚、いんげん、ひき肉、魚の肉の残りをほぐしたもの、ビフテキ、カツレツの残りを小さく切つたものなど、何でも適宜に混ぜて拵へて頂きたいと思ひます、子供達は何が入つてゐても王子のつもりで喜んで食べますが、偏食を防ぐによい方法です

お味噌　子供はまた概ねお味噌を好みます、おだしでなくても水と砂糖で甘く煮りおけておき、小皿や碗を準備したとき、例へば豆腐などにはさむと、牛蒡やもなく子供等は大変よろこびます、さうしたお魚や肉の下には必ずキャベツ、人参など、生の野菜を敷きみにして置きます、ねり味噌はその外じかに豆腐につけたり、ふかしご飯切りにたにつまに混ぜたり、つぶしたりしますとよろしい、

お煮豆　お煮豆も子供のお弁當の一つですが、

フライ用）

合計、巾尺、尺巾一丈九尺八寸

ジャケットとデバイデットスカートのツーピースです

ジャケットの裾は鋸をかけはずして調節し、スカートの裾口は鋸を後でかけてズボンとし一層活動の場合は膝下へ引上げてニッカーとしたものです

マフラーは袴の汚れをさけるためで、暖くとき頸巾として用ひます

（裁ち方）

1、着物の袖から前後の身頃を四枚とエリ、襟にして一枚をとります

2、着物の身頃からスカート四枚、マチ布一枚、袖四枚、小エリ一枚をとります

3、ベルトをバイヤスにするには適宜に裁ち合せて裁ります

4、頸巾とエプロン、頸巾は一方形三角に、エプロンは出来るだけ一ぱいに裁ります

（縫ひ方）

甘味のの調にはサッカリンは入れ過ぎると不味ですが、ごく少量をうまく使ふと非常に砂糖の節約になります、これはむしろ病になる心配は絶対にありませんから、子供にも安心です、便利に使ふためにはサッカリンを十倍位に水で溶かして置き、一滴づつ落ちるやうになつてゐる壜で一回十五、六滴）に入れておくとよろしい、

砂糖を入れずに煮る方法　砂糖なしで煮豆をつくるには、まづ豌豆（一晩つけておく）、蚕豆（一晩つけておく）、大豆（一晩つけておく）、小豆（一晩つけておく）、金時豆（一晩つけておく）、白隠元（一晩つけておく）、黒隠元（一晩つけておく）、ひよこ豆（一晩つけておく）、青大豆（一晩つけておく）、黒大豆（一晩つけておく）、白大豆（一晩つけておく）、赤大豆（一晩つけておく）、

（主婦ノート）

糊の作り方

襖を貼る時の

襖を修理したり、貼り換へたりする時に大切なのは糊の作り方です良質の生麩を選んで、次を加へて煮溶かし、一度煮ができたところで更に三十分ほど煮ます。かうすると、柔かい良質の糊ができます。糊刷と洗濯のご通りを用意することをお忘れないやうに。下貼りは先づ雑紙全體に薄い糊をつけて貼り、次にその上に淡い糊をつけすやうな塩梅で刷きつけ、別に用意しておいた日本紙に糊をつけて貼ります。この下貼が上手に行かないと、上貼りが縮になりますから注意が肝要です。上貼りは雑紙に薄い糊をつけたら更に糊刷一寸位に薄い糊をつけて襖紙を貼ります。この際中から糊刷へ貼りはしまます。

お百姓さんを入れずに民衆の個々とか、さやいんげんの名産、蓮根その他を沢へることを忘れないやうに。

一晩位にわたつて飯茹、魚、海草、野菜、豆等がみんなゆやわらかくなつてゐる時で一回十五、六粒）に煎つておくとよろしい、

砂糖なしで煮ると、豆類（一晩つけておく）、蚕豆（一晩つけておく）、大豆（一晩つけておく）、小豆（一晩つけておく）、金時豆（一晩つけておく）、白隠元（一晩つけておく）、黒隠元（一晩つけておく）、ひよこ豆（一晩つけておく）、青大豆（一晩つけておく）、黒大豆（一晩つけておく）、白大豆（一晩つけておく）、赤大豆（一晩つけておく）、

腰痛も治りました

北埼玉郡可
浦町　キミ

お送り下さいましたウテナパンシング早速使用いたしますと今迄悩んでゐた腰痛がカラリ即一回の使用で治りました、お友達と会ひましてもお話がカラリと治り、今は喜んでをります。

度々お手数をおかけして申訳ございませんが、「女性の新生理学」二冊をお送り下さいたします。この本は女性必読の書でもあり、お友達にも会ひましてもなくすらく入手まり、嬉しいのまりこの事もお知らせいたしました。

ウテナ化粧品　東京市芝区愛宕町一丁目
大病院使用　株式会社　河原商店
振替東京二三五番
電話芝（43）二六三三番

女性に挑む病魔をつゝめ

女性は、健康な體軀を築き、出来る方は職業部門に乗り出して、人間改造を敢行しなければなりませぬ。猶更に阻害される恐るべき第二国民の滅亡を、防衛せねばなりませぬ。是等健全な女性によつて實現も期待されることです。婦人病は、是が非でも撲滅しなければなりませぬ。

女性はホルモンで

界の新秩序を守らんとする英佛二国に對抗し、新秩序を樹立しようとする獨逸が、遂に起ちあがりました。

女性醫學も、臨床面、眞理を實驗したりした一時切り放しの消極的態から、今こそ飛躍を遂げて、生理の新秩序を確立しなければなりません。

最

初期に於ける、癌が、白帯下であること、此秩序を恢復すれば、癌の發生を防ぐことが出来ます。

現

細胞を健全ならしめるビタミンAD、微量性女性ホルモンの發見も出来、新秩序を取り戻すに至つた最新醫學の進歩は、驚くべきものがあります。

内

最新醫學を以て、帝國大學病院婦人科を始め全國の主要病院で、下腹部腫瘍の引き取り、白帯下など婦人病最高の治療が、現婦人科治療界の最高位に當る治療と協力するように出来ておつて、醫科大學病院婦人科より博士によつて發表された、白帯下、癌みを早く退ける作用と、ビタミン學より人體の全體を健全ならしめる作用とを以て、一部の細菌に作用する殺菌方法、二た法も發見出来、再發の不安を此方面に殺すことはありません。

無月経發育不全は、微量性女性ホルモンで解決出来、制經痛止血鎮静劑療法が、微量ビタミン病根治療が施こされるので、病根が徹底して、病苦を根こそぎ取り去ることが出来ます。

不眠症など二つの原因を除去して、不眠症など二つの原因を除去して、跡形を消して終ひます。

治療醫學の粋を集めたウテナ球治療は、目下好評嘖々、流れ出ない海に使用法のよい点でどの六球七十錢、十二球一圓廿錢、廿四球一圓四十錢、病院製品一圓四球十二圓も薬局で發売デパートに有り、お求めはめず帝大病院と指定すること、品切れはカワセ、フリカ代理店東京市芝區愛宕町十二番地合名會社東京三〇一九番）へお申込み下さい。代金引換は内地に限る。

▽女性の新生理学　ハガキで申込めば無料

ウテナパンシング

RANRAN
BOTANICAL COSMETIQUE

上品で名の通つてゐる油料御粧

國産最高標準品
ウテナ粉白粉

すばらしい…三大特性！

・粒子が日本人の肌に最適ですからムラなく美しくツク
・白粉の粒子自身が汗・脂らを吸收してお化粧崩れを防ぐ
・色調の明澄度が高いため地肌を美しく活かし自然な健康化粧ができます。

白・肌・薄肌・健康
ブルー・ナチュラル
オークル一號・二號

14.11—4.1

ニキビ・肌アレ予防に！

ウテナパンシングは肌を内部から培ふと同時に強力な保護作用で外氣の刺戟や塵埃から肌を護りニキビ吹出物・肌アレを防ぎます洗顔後や入浴後のちよつとしたお手入れでいつも美しい若肌を保つことが出来ます。

色黒・脂ら顔に・お化粧下に！

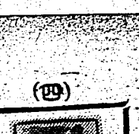
サラッと溶けこみ肌を引きしめ汗や脂らの分泌を整へて化粧崩れを防ぎ色黒あばら顔を解消して垢ぬけた美しいお肌になります。

冷い風からお肌を護る

外出前、洗顔・入浴後に忘れずウテナパンシングでお肌を整へて下さいサラッと溶けこみ強力な美肌作用でキメを培ふと同時に獨特の保護作用で晩秋の寒冷からお肌を護り、色黒あばら顔を解消して潑剌としたアレ知らぬ健康な若肌を育くみます

健康な若肌を創るこの美肌作用

ムーリクナテウ（ハニシング）



馬に乗る猿

石川達三作

(11) 伊東顯畫

竹下閉平傳（四）

月給四十円で係用されて以来久山直三は、翌月から五十円になつた。更に翌月は六十円になり、次の月には六十五円になつた。久山はこの破竹の勢ひで人間に認れてしまつた。

しかし社長で見れば、久山の幸運はほんの僅かな事に過ぎなかつた。

彼はその時の事を後年次の様に語つてゐる。

「私が社長になつたのは全く偶然の出来事だつた。私の前には私よりも古い人が大勢ゐたし、私よりも学問のある人も沢山ゐた。私が社長になつたのは、全く運が好かつたからだと思ふ。」

竹下閉平は幸運に恵まれた男であつた。

彼は小学校を卒業すると直ぐ或る呉服屋の小僧になつた。

彼は十七歳の時に小僧を止めて、或る洋服屋の店員になつた。

彼は二十歳の時に兵隊に行つた。

彼は二十三歳の時に兵隊から帰つて来ると、或る洋服屋の店員になつた。

彼は二十五歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は二十七歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は二十九歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は三十歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は三十一歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は三十二歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は三十三歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は三十四歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は三十五歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は三十六歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は三十七歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は三十八歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は三十九歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は四十歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は四十一歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は四十二歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は四十三歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は四十四歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は四十五歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は四十六歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は四十七歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は四十八歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は四十九歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は五十歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は五十一歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は五十二歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は五十三歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は五十四歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は五十五歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は五十六歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は五十七歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は五十八歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は五十九歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は六十歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は六十一歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は六十二歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は六十三歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は六十四歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は六十五歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は六十六歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は六十七歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は六十八歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は六十九歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は七十歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は七十一歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は七十二歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は七十三歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は七十四歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は七十五歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は七十六歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は七十七歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は七十八歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は七十九歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は八十歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は八十一歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は八十二歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は八十三歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は八十四歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は八十五歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は八十六歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は八十七歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は八十八歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は八十九歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は九十歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は九十一歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は九十二歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は九十三歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は九十四歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は九十五歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は九十六歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は九十七歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は九十八歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は九十九歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は百歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は百一歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は百二歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は百三歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は百四歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は百五歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は百六歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は百七歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は百八歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は百九歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は百十歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は百十一歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は百十二歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は百十三歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は百十四歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は百十五歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は百十六歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は百十七歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は百十八歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は百十九歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は百二十歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は百二十一歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は百二十二歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は百二十三歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は百二十四歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は百二十五歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は百二十六歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は百二十七歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は百二十八歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は百二十九歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は百三十歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は百三十一歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は百三十二歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は百三十三歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は百三十四歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は百三十五歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は百三十六歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は百三十七歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は百三十八歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は百三十九歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は百四十歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は百四十一歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は百四十二歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は百四十三歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は百四十四歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は百四十五歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は百四十六歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は百四十七歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は百四十八歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は百四十九歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は百五十歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は百五十一歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は百五十二歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は百五十三歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は百五十四歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は百五十五歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は百五十六歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は百五十七歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は百五十八歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は百五十九歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は百六十歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は百六十一歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は百六十二歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は百六十三歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は百六十四歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は百六十五歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は百六十六歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は百六十七歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は百六十八歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は百六十九歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は百七十歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は百七十一歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は百七十二歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は百七十三歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は百七十四歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は百七十五歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は百七十六歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は百七十七歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は百七十八歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は百七十九歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は百八十歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は百八十一歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は百八十二歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は百八十三歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は百八十四歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は百八十五歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は百八十六歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は百八十七歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は百八十八歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は百八十九歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は百九十歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は百九十一歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は百九十二歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は百九十三歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は百九十四歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は百九十五歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は百九十六歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は百九十七歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は百九十八歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は百九十九歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は二百歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は二百一歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は二百二歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は二百三歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は二百四歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は二百五歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は二百六歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は二百七歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は二百八歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は二百九歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は二百十歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は二百十一歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は二百十二歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は二百十三歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は二百十四歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は二百十五歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は二百十六歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は二百十七歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は二百十八歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は二百十九歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は二百二十歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は二百二十一歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は二百二十二歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は二百二十三歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は二百二十四歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は二百二十五歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は二百二十六歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は二百二十七歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は二百二十八歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は二百二十九歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は二百三十歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は二百三十一歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は二百三十二歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は二百三十三歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は二百三十四歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は二百三十五歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は二百三十六歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は二百三十七歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は二百三十八歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は二百三十九歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は二百四十歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は二百四十一歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は二百四十二歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は二百四十三歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は二百四十四歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は二百四十五歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は二百四十六歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は二百四十七歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は二百四十八歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は二百四十九歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は二百五十歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は二百五十一歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は二百五十二歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は二百五十三歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は二百五十四歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は二百五十五歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は二百五十六歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は二百五十七歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は二百五十八歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は二百五十九歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は二百六十歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は二百六十一歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は二百六十二歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は二百六十三歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は二百六十四歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は二百六十五歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は二百六十六歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は二百六十七歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は二百六十八歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は二百六十九歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は二百七十歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は二百七十一歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は二百七十二歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は二百七十三歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は二百七十四歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は二百七十五歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は二百七十六歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は二百七十七歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は二百七十八歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は二百七十九歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は二百八十歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は二百八十一歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は二百八十二歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は二百八十三歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は二百八十四歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は二百八十五歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は二百八十六歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は二百八十七歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は二百八十八歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は二百八十九歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は三百歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は三百一歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は三百二歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は三百三歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は三百四歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は三百五歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は三百六歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は三百七歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は三百八歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は三百九歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は三百十歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は三百十一歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は三百十二歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は三百十三歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は三百十四歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は三百十五歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は三百十六歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は三百十七歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は三百十八歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は三百十九歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は三百二十歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は三百二十一歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は三百二十二歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は三百二十三歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は三百二十四歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は三百二十五歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は三百二十六歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は三百二十七歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は三百二十八歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は三百二十九歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は三百三十歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は三百三十一歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は三百三十二歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は三百三十三歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は三百三十四歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は三百三十五歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は三百三十六歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は三百三十七歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は三百三十八歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は三百三十九歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は三百四十歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は三百四十一歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は三百四十二歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は三百四十三歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は三百四十四歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は三百四十五歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は三百四十六歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は三百四十七歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は三百四十八歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は三百四十九歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は三百五十歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は三百五十一歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は三百五十二歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は三百五十三歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は三百五十四歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は三百五十五歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は三百五十六歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は三百五十七歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は三百五十八歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は三百五十九歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は三百六十歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は三百六十一歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は三百六十二歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は三百六十三歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は三百六十四歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は三百六十五歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は三百六十六歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は三百六十七歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は三百六十八歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は三百六十九歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は三百七十歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は三百七十一歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は三百七十二歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は三百七十三歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は三百七十四歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は三百七十五歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は三百七十六歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は三百七十七歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は三百七十八歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は三百七十九歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は三百八十歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は三百八十一歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は三百八十二歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は三百八十三歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は三百八十四歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は三百八十五歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は三百八十六歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は三百八十七歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は三百八十八歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は三百八十九歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は三百九十歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は三百九十一歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は三百九十二歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は三百九十三歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は三百九十四歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は三百九十五歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は三百九十六歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は三百九十七歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は三百九十八歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は三百九十九歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は四百歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は四百一歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は四百二歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は四百三歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は四百四歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は四百五歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は四百六歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は四百七歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は四百八歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は四百九歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は四百十歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は四百十一歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は四百十二歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は四百十三歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は四百十四歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は四百十五歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は四百十六歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は四百十七歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は四百十八歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は四百十九歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は四百二十歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は四百二十一歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は四百二十二歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は四百二十三歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は四百二十四歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は四百二十五歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は四百二十六歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は四百二十七歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は四百二十八歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は四百二十九歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は四百三十歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は四百三十一歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は四百三十二歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は四百三十三歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は四百三十四歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は四百三十五歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は四百三十六歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は四百三十七歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は四百三十八歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は四百三十九歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は四百四十歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は四百四十一歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は四百四十二歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は四百四十三歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は四百四十四歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は四百四十五歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は四百四十六歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は四百四十七歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は四百四十八歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は四百四十九歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は五百歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は五百一歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は五百二歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は五百三歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は五百四歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は五百五歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は五百六歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は五百七歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は五百八歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は五百九歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は五百十歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は五百十一歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は五百十二歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は五百十三歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は五百十四歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は五百十五歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は五百十六歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は五百十七歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は五百十八歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は五百十九歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は五百二十歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は五百二十一歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は五百二十二歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は五百二十三歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は五百二十四歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は五百二十五歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は五百二十六歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は五百二十七歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は五百二十八歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は五百二十九歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は五百三十歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は五百三十一歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は五百三十二歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は五百三十三歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は五百三十四歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は五百三十五歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は五百三十六歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は五百三十七歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は五百三十八歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は五百三十九歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は五百四十歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は五百四十一歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は五百四十二歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は五百四十三歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は五百四十四歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は五百四十五歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は五百四十六歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は五百四十七歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は五百四十八歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は五百四十九歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は五百五十歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は五百五十一歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は五百五十二歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は五百五十三歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は五百五十四歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は五百五十五歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は五百五十六歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は五百五十七歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は五百五十八歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は五百五十九歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は六百歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は六百一歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は六百二歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は六百三歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は六百四歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は六百五歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は六百六歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は六百七歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は六百八歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は六百九歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は六百十歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は六百十一歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は六百十二歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は六百十三歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は六百十四歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は六百十五歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は六百十六歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は六百十七歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は六百十八歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は六百十九歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は六百二十歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は六百二十一歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は六百二十二歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は六百二十三歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は六百二十四歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は六百二十五歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は六百二十六歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は六百二十七歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は六百二十八歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は六百二十九歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は六百三十歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は六百三十一歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は六百三十二歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は六百三十三歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は六百三十四歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は六百三十五歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は六百三十六歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は六百三十七歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は六百三十八歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は六百三十九歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は六百四十歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は六百四十一歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は六百四十二歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は六百四十三歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は六百四十四歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は六百四十五歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は六百四十六歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は六百四十七歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は六百四十八歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は六百四十九歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は七百歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は七百一歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は七百二歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は七百三歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は七百四歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は七百五歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は七百六歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は七百七歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は七百八歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は七百九歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は七百十歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は七百十一歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は七百十二歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は七百十三歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は七百十四歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は七百十五歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は七百十六歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は七百十七歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は七百十八歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は七百十九歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は七百二十歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は七百二十一歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は七百二十二歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は七百二十三歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は七百二十四歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は七百二十五歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は七百二十六歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は七百二十七歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は七百二十八歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は七百二十九歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は七百三十歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は七百三十一歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は七百三十二歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は七百三十三歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は七百三十四歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は七百三十五歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は七百三十六歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は七百三十七歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は七百三十八歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は七百三十九歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は七百四十歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は七百四十一歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は七百四十二歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は七百四十三歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は七百四十四歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は七百四十五歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は七百四十六歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

彼は七百四十七歳の時に或る洋服屋の店員になつた。

臺灣日日新報

本日夕刊共十二頁

昭和十四年十一月二十一日（火曜日）

第一ヶ月前金壹圓五拾錢・六ヶ月金三圓拾錢・壹ヶ年金六圓（日本國內及滿洲朝鮮料金不要）

臺灣日日新報社 臺北市榮町一丁目二番地 電話 代表五八〇一番 編輯局五八〇二番 營業局五八〇三番 印刷局五八〇四番 振替口座臺北二番

臺灣日日新報社 臺北市榮町一丁目二番地 電話 代表五八〇一番 編輯局五八〇二番 營業局五八〇三番 印刷局五八〇四番 振替口座臺北二番

編輯人 佐々木真 印刷人 吉岡宗一郎

定價 一部六錢・一ヶ月前金壹圓五拾錢・三ヶ月金四圓參拾錢・六ヶ月金八圓拾錢・壹ヶ年金拾七圓（日本國內及滿洲朝鮮料金不要）

料金 普通紙一行十五字 壹圓 同二行 壹圓五拾錢 同三行 貳圓 特殊紙一行十五字 壹圓五拾錢 同二行 貳圓五拾錢 同三行 參圓 運動員募集廣告 臺北二番 臺北用五八〇二番 運動員二四ダヒ

社說

我が駐兵は半永久的なれ 中國人が進んで協力するため

明日の支那に備へつゝ現在進行中である。且つ如何に備へつゝ現在進行中である。且つ如何に備へつゝ現在進行中である。且つ如何

戰時體制下の經濟事情（三）

日油の石鹸界制覇

尼ヶ崎工場二十年の歴史

日本油脂會社は無盡藏の資源たる魚油及び大豆の工業的利用により油脂、肥料、飼料、燃料、火藥、化學製品等有機化學工業に關する諸事業を營むを目的とし、これら各般の工業經營に於てその特長とする所は原料より製品までの一貫的

綜合作業

と合理化にあり、中にも油脂工場として何れも國際的大にして本邦魚油全生産額の過半を消化し、その生産する先ず石鹸は年産に於て二百五十万樽を超え、全國の國産油の大部分に當り、又化粧石鹸は子寶印は本石鹸と共に毎月百二千万箇約一千百万打を製造し之また全國の約五割を占め、殊に化粧石鹸に於ては我が國第一の製造高を示してゐる、斯く石鹸が國民生活に缺くべからざる日用品の最重要品目の一たる所以は實に日油創業者故

岩井勝次郎翁

の三つであつたが、ハープとベルベットの商標權は日油と共に讓渡し、サンライトの商標權は自ら之を持つて行つて上述に大きな差を生じた、右尼ヶ崎工場の買收に當つて岩井翁は「商品より製品までの一貫的綜合作業」と言ひ、又「油脂と石鹸とは車の兩輪の如きもの」と喝破したと傳へられるが、それが本邦合同油脂の發祥である。ところがリヴァープラザースは其後日本に見切りを付け尼ヶ崎油脂工場を松方幸次郎氏と共營とする神戸瓦斯に賣却し、三百二十万圓で讓渡したリヴァープラザースは其後日本にソライトとハープ（以上洗濯石鹸）のニつであつたが、ハープとベルベットの商標權は日油と共に讓渡し、サンライトの商標權は自ら之を持つて行つて上述に大きな差を生じた、右尼ヶ崎工場の買收に當つて岩井翁は「商品より製品までの一貫的綜合作業」と言ひ、所謂ニッサン石鹸はそれの統合せられたものである尼ヶ崎工場は兵庫縣武庫郡大庄村武庫川畔に位し、今より卅年前の明治四十二年本國の石鹸王リヴァープラザースが建設したもので、その當時は何一つ建物のない淋しい田園であつたが今は此の附近は標準住宅地帶になつてゐる、リヴァープラザースは其後日本に見切りを付け尼ヶ崎油脂工場を松方幸次郎氏と共營とする神戸瓦斯に賣却し、三百二十万圓で讓渡したリヴァープラザースが建設した工場で

潜水艦戦に入る

苦手の日本海軍が中立

第一次大戦の撃沈数四千隻

先の歐洲大戦に於て、苦きに最も深く印象を残したものは何と云つても強力の潜水艦戦略であつた。その跳梁した作戦は文字通り四千二百万の英国人を戦慄と恐怖のドン底に叩き込んで了つた。今次の大戦に於ても、英国は空からの脅るべき攻撃にも増して、強力潜水艦の英国船舶撃滅を恐れてゐる、九月二日と四日英佛が相次いで独逸に宣戦を布告してから（九月十五日までの僅かな日数の間だけでも）撃沈を報つた商船は、

◇独乙側商船――オルンザ號（四千五百噸）、イン號（五千二百噸）何れも英国船舶洋航の最大西洋で撃沈され、又ボキナ號（七千二百噸）は西印度諸島に於て英艦隊のため拿捕され

◇英佛側商船――アセニア號（八千六百噸）但し獨側では英國商船が獨逸して撃沈したのだと言つてゐる、ボスニア號（二千八百噸）、マナール號（六千四百噸）ローヤルセブスター號（八千二百噸）ブカスタム號（六千五百噸）レゼント・タイガー號（七千九百噸）、ポール・クイエー號（七千六百噸）、サン・ナジヤール號（六千七百噸）、何れも大西洋で獨乙潜水艦のため撃沈された

▽

しかしこれでは、宣戦布告の發せられて以後の海洋撃沈の數がないでは、當時獨逸は勿論潜水艦に於ても優る勢力であつたが、其の實力は否定されてゐるのである

即ち、當時獨逸は勿論潜水艦に對して優勢

激流

（第一回）

久生十蘭作
伊勢良夫畫

冬薔薇し薫る（八）

駛子はノー・カラーの藤色のグローゼットの服に薊の花をつけ、郵便局の手の小荷の箱を買取ったがうすで「郵」のはう へ曲げ、相手の顔を上眼づかひに見上げながら、何か小声で話しかけては眩めかしく笑つてゐる。

窓にゐるときは、那た魚のやうにおし黙つて、ものを言ふ時も「郵さん」と助かしたこのない危険な娘の、いつたいどこにこんな缶つぱさが隠れてゐたのかと、駛子は呆気にとられて眺めてゐた。

食卓を挟んで向ひ合つてゐるのは、眩眩な服を着用に身につけた伊達男といつたらいちばん縁りさうな中年の紳士で、ゴルフ焼けのしたギリッとしまつた顔に黒い眼鏡を真正面に駛子の顔の上に据ゑ、いかにも人をそらさぬやうすで、駛子の話に聞いてゐる。

ひどく酔れ切つたところもあつて、他人行儀のやうなところもあつて、二人がどんな関係につてゐるのか見当がつかないのが興味深かつた。

駛子が二人の方へ心をとられてゐると、駛子は、しをらつたやうな恥た含み笑ひをして、

「ちよいと聞いた？……でも、これが始めてぢやないのよ。この間は例のお中年と自動車から降りて来たつけ。……駛子さん、どうやら中年眩殊を見るわれ」

これもまつたく初耳だつた。

駛子は、驚いて、

「ちよイと　それ、本當？　眩が嫉なぞ言ふもんですから。あたし、ちやんと言明けたの」

「いつ？……どこで？」

「五日ほど前。ここで、清次郎とお中食をした帰り道。……新橋の駅へ自動車を停めて、二人で眩を組みながら、十間の方へ歩いて行つたわ」

「どんな風眩？」

「今日の様にくると、二番目くらゐのとこね。でも、それだつて相當なもんだつたぜ。プジロなんて生意気な自動車を持つてゐた……」

駛子が、駛子に口を取られたのは、もう十二年ほど前、駛子が久武と結婚した翌年のことで、駛子は十歳だつた。

姉の智子は不幸な結婚として早く夫に死に別れ、間もなく、自分なりになつた。

眞彼とちがつて、この方はやんちんの強い伯母様なのだから肩身を狭くする事は要らないのだが、一體に気の沈んだ、悲したやうなところのある娘で、自分に當がはれた態の裏の別様の洋館で、この一家の譲眩もかさうであるやうに、急激で無眼心で、よくよくの時でも、駛情の小波さへ顔に現さない。

眼は美しいほどいいらしく、学校の成績もべ抜けて良かつたが、日常は、ひどく物臭に、黒く落着き拂つてジロジロと観察するが決して自分の意見などは吐かないまれに二言三言にしか口をきかないのにいつも嬉うた顔をし、無口で陰気で、ひどく表感うたやうすをしてゐる。……さういふ駛子の、人が望つたやうなこの態かしいうすは、たしかに、駛子を疲かせるに充分だつた。

「……あいつ、どうしたつてんだらう」

眼はず、さも不思議と、駛子は、意味あり気に「郵」の端を押し眼けて、駛子の眼の中を覗き込むやうにしながら、

「つまりあれは反動なのさ。駛子さんがどうしてあんなになつたかあんた、駛子があるでせう？」

「眼はず、さも不思議と、駛子は、意味あり気に「郵」の端を押し眼けて、駛子の眼の中を覗き込むやうにしながら、

「つまりあれは反動なのさ。駛子さんがどうしてあんなになつたかあんた、駛子があるでせう？」

「……」

駛子は、ぢつと眼を伏せた。

「あれは、ね、駛子さん、あんたのせいなのよ。あんたが、あんまり、あんまり……」

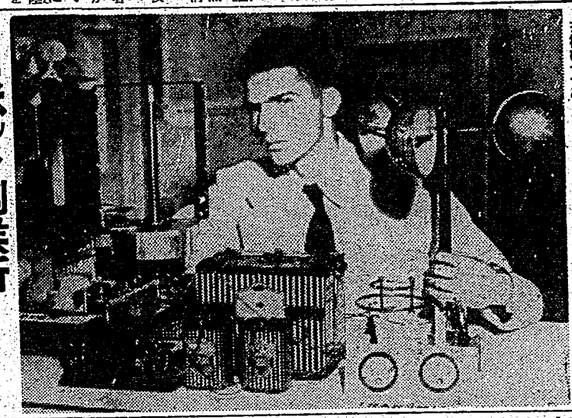
「眼はず、さも不思議と、駛子は、意味あり気に「郵」の端を押し眼けて、駛子の眼の中を覗き込むやうにしながら、

「つまりあれは反動なのさ。駛子さんがどうしてあんなになつたかあんた、駛子があるでせう？」

「……」

駛子は、ぢつと眼を伏せた。

「あれは、ね、駛子さん、あんたのせいなのよ。あんたが、あんまり、あんまり……」



ロボット測候所

製作者は白面の一學士

國際測地學及地球物理學協會の席上公開された自動測候器の實驗をなけつつあるプリンストン大學學生トーマス・エイ・デイヴイケイ

過日米國ワシントンで開催された國際測地学及地球地理学協會の総會で発表したロボット測候所設置の提議が行はれた。

ロボット測候所の建設候所地はアラスカとカナダの西北方面といふ適当に選つた荒無地ばかりで、ここで自動的氣象觀測器とラヂオ送信器が人間以上の働きをして、すばらしい天氣豫報を作はうといふ計畫で、総會第一委員會の實驗が行はれ、委列者として實驗せしめたが、その大要は次の通りである。

まづ第一にロボット測候所のアイデアを着想したのはハーバード大學プルー・ヒル測候所のケイオー・レンチ博士で、その指導下に完成した装置は総會の期間中にプルー・リッヂ山麓のウエザー山から毎日氣象條件の報告を繊續した。ウエザー山からワシントンの會場にあるエキジビション・ホールまでの直線距離は約五〇マイル程時の氣候、氣温、濕度、風向、風速及び時間等の資料を觀測して二ワットの送信機を用ひ下波にてこれを記録したのである。次の舞台はさらにニュー・ハンプシャーの山で、此處で行はれる自動觀測を一四五マイル離れたプルー・ヒル測候所へ送信することとなる見込みである。

この研究が目差す究極のゴールはアラスカ及びカナダの西北地方におけるロボット測候所と送信器の完成、建設で現にこの地方が米國の天候を支配する多数の條件を作り出してゐる以上、この事は絶對に必要と見られるが、時米は太平洋、大西洋上の多くの孤島にも同様の設備がなされ、一時間毎に正確なデータが得られることとなるであらう。

自動觀測器と送信器の製作に當つたのはプリンストン大学のトーマス・デイヴイケイ君、卒業を明年に控へて実地研究の條件のないメカニカル・エンジニヤリングの專攻者、依頼したプルー・ヒル測候所のレンチ博士も助手のチャールス・ピアー君もその最適任者として推薦してゐる。

完成に近づいた
米海軍の試験水槽

（下）

海の制覇をめざして建設

一隻を浮けると自航試験に用ふる推進器一個が一〇〇ドルである この推進器は動力計と連絡して模型船を推進し、定速度で走るために設計された極めて小型の記録によつて實際の艦船の推進機關の馬力を割出すことが出來る

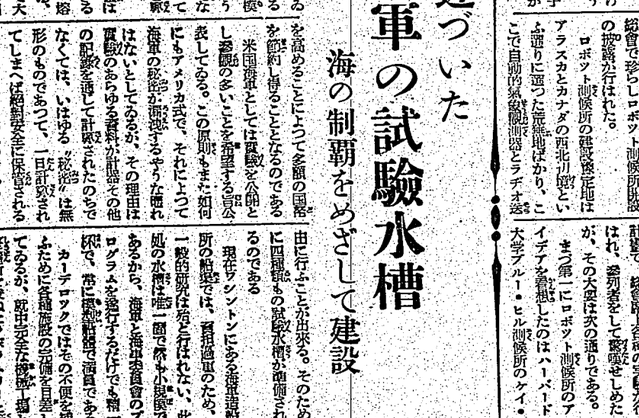
推進器の実驗に使用する模型船は一般に二十呎乃至二十五呎で、加工できるから、模型船の比較的低い金額を用ゐ、石膏製又は木製の模型に入れて大體の形を整造し、一ヶ推進器の製造と同時に取り付け艦底に仕上げをする

かくの如く實驗は一般に高價されるよりも多數の模型を必要とするが、しかし實際の設備は實驗なことはやまでもなく、これによつて數万ドルの莫大な設備を未然に防ぐことが出來るしまた船舶の能率を高めることによつて數百由に行ふことが出來る。そのために四種類もの試驗水槽が設備されるのである

米國海軍としては實驗を公開と し多數の多いことを希望する同公表してゐる。この原則もまた如何にもアメリカ式で、それによつて海軍の秘密が漏洩するやうな憂れはないとしてゐるが、その理由は實驗のあらゆる資料が計畫その他の記録を通じて計畫されたのちでなくては、いはゆる「秘密」は無形のものであつて、一旦計畫されてしまへば絶對安全に保護される。から大丈夫だといふのである

海軍のみならず民間の造船施設たちがカーデロック實驗所の各種施設を利用することも許されるが、但しそのための實驗費用は造船會社の負担となることは勿論である

カーデロックで行ひ得る研究の範囲を略述すれば、こゝに一般的研究計畫も、特殊船舶の研究も自



由に行ふことが出來る。そのために四種類もの試驗水槽が設備されるのである

現在ワシントンにある造船船所の船型では、實用速度のため、一般的研究は殆ど行はれない、此處の水槽は極く一部で際や小規模であるから、海軍と海事委員會のプログラムを遂行するだけでも精一杯で、常に船舶の実際に當面してゐる

カーデロックではその不便を補ふために各種實驗の完備を目差してゐるが、船型研究室を設置し、ラボラトリーと修理所を兼ねたラボラトリーと管理事務所を次々と並んで建てゝある。ここでは擴れた部分品の保管も行ふが、その他に海軍博物館を建てる計畫もある。水槽の水は實驗所敷地の端から流れる有名なポーマク河からポンプで汲み上げるのである

國立航空諮問委員會にはカーデロックより大規模の現存水槽があ る。全長二、六〇〇フィート（約七八〇メートル）で正に二萬以上で、實驗のラングレイ・フィールドの實驗所にあるのだが、これは全く別途の實驗のために設計せられたので、一時間八〇マイルの速力を出すゴムタイヤの車台を用る飛行機の離着陸や水上飛行機の浮船を研究的に實驗するところである。カーデロックでは船舶の試驗のみ行ふところに重點性がある のだ（完）

一科一學情報

英國での一學校によるとユダヤ製學校といふのは決してユダヤ人の特徴でなく、そのもとを尋ねればヒッチッヂ、タタール、スラヴ等のアリアン系諸民族の特徴的容貌であつたのが多い、それが古代に國籍を通じてユダヤ人の中に流れ込み今日に到つたものらしいと。

× ×

農業に適當な氣候が必要だが、日本のやうに満洲の高い國では農業家は特に農業を愛する、夏も朝涼の候の農民の感じ方は氏は農業に於ても農民に時代おくれとなり、最近の統計によりましてもクリンシンの使用額はおよそ一般と増したとさへ言はれてゐます

▲クリンシンの世界的流行！

歐米に於てもクリンシンの流行は非常なもので從來の凡ゆる洗面料やクリーム類は歐に時代おくれとなり、最近の統計によりましてもクリンシンの使用額はおよそ一般と増したとさへ言はれてゐます

▲國策順應のクリンシンの新裝品出づ！

定價一圓七十八錢

ラヂオ

【十二日】
【午前十一時】ラヂオ體操
【十一時三〇】ニュース
【十一時三〇】國語（第二）
【十二時】ニュース
【十二時二〇】ラヂオ・コンサート
【十二時三〇】ハイキング・ニュース紹介の時間（第北のみ）
【十二時五五】ゴトモのニュース（第北第二回報道演習放送後）
【午後一時】子供の時間（東京）
【一時一〇】講演（東京）
【一時二〇】子供の時間（東京）
【一時三〇】子供の時間（東京）
【二時】講演（東京）
【二時一〇】子供の時間（東京）
【二時二〇】講演（東京）
【二時三〇】子供の時間（東京）
【二時四〇】講演（東京）
【二時五〇】子供の時間（東京）
【三時】講演（東京）
【三時一〇】子供の時間（東京）
【三時二〇】講演（東京）
【三時三〇】子供の時間（東京）
【三時四〇】講演（東京）
【三時五〇】子供の時間（東京）
【四時】講演（東京）
【四時一〇】子供の時間（東京）
【四時二〇】講演（東京）
【四時三〇】子供の時間（東京）
【四時四〇】講演（東京）
【四時五〇】子供の時間（東京）
【五時】講演（東京）
【五時一〇】子供の時間（東京）
【五時二〇】講演（東京）
【五時三〇】子供の時間（東京）
【五時四〇】講演（東京）
【五時五〇】子供の時間（東京）
【六時】講演（東京）
【六時一〇】子供の時間（東京）
【六時二〇】講演（東京）
【六時三〇】子供の時間（東京）
【六時四〇】講演（東京）
【六時五〇】子供の時間（東京）
【七時】講演（東京）
【七時一〇】子供の時間（東京）
【七時二〇】講演（東京）
【七時三〇】子供の時間（東京）
【七時四〇】講演（東京）
【七時五〇】子供の時間（東京）
【八時】講演（東京）
【八時一〇】子供の時間（東京）
【八時二〇】講演（東京）
【八時三〇】子供の時間（東京）
【八時四〇】講演（東京）
【八時五〇】子供の時間（東京）
【九時】講演（東京）
【九時一〇】子供の時間（東京）
【九時二〇】講演（東京）
【九時三〇】子供の時間（東京）
【九時四〇】講演（東京）
【九時五〇】子供の時間（東京）
【十時】講演（東京）
【十時一〇】子供の時間（東京）
【十時二〇】講演（東京）
【十時三〇】子供の時間（東京）
【十時四〇】講演（東京）
【十時五〇】子供の時間（東京）
【十一時】講演（東京）
【十一時一〇】子供の時間（東京）
【十一時二〇】講演（東京）
【十一時三〇】子供の時間（東京）
【十一時四〇】講演（東京）
【十一時五〇】子供の時間（東京）
【十二時】講演（東京）
【十二時一〇】子供の時間（東京）
【十二時二〇】講演（東京）
【十二時三〇】子供の時間（東京）
【十二時四〇】講演（東京）
【十二時五〇】子供の時間（東京）
【一時】講演（東京）
【一時一〇】子供の時間（東京）
【一時二〇】講演（東京）
【一時三〇】子供の時間（東京）
【一時四〇】講演（東京）
【一時五

(第三種郵便物認可)　昭和十四年十一月二十一日（火曜日）　臺灣日日新報　第一万四千二百五十五號　晝一（五）

必死の大接戦展開

決戰逼る

臺中

【臺中電話】臺中州下市街庄議員並に市協議會員候補者は愈々十九日午後になつて出揃ふ筈であるが、現在迄に屆出でたものは左の如くである

嘉義

【嘉義電話】嘉義市會議員の缺員二名、嘉義郡下十七名其の他多く定員を突破の豫想で、候補者の動靜を注視されてゐる

屏東市も超過

【高雄電話】屏東市第一回議員候補者は最終日の十九日に林次炎氏（鮫水製造業）が駈け出たので十五名となり定員を一名突破した

馬公は無競爭

定員十名の協議會員に對して締切り十九日午後十二時迄には立候補屆出に關し騷がしたくましくされて居たが結局定員の如き顏觸れと決定し無競爭となつた

臺南市聯合青年團會閥

【臺南電話】臺南州聯合青年團大會は十九日午前十時より末廣公學校講堂に於て開催された（會員は川村團長の指名）

高雄市も超過

【高雄電話】高雄市第一回議員候補者は最終日の十九日に林火炎氏（鮫水製造業）が駈け出たので十五名となり定員を一名突破した

臺東は濫立

きのふは立會演說

【臺東電話】臺東街協議會は遂に決定人選難した功績に依り二十日新營郡防犯協會長林本部守より名指中名に對し金一封恩賜狀授與

國講生の赤誠獻金

一錢銅貨で十二圓餘……

【臺北電話】臺北州北部各街庄地方議員選舉第一回の立候補屆け出は何れも定員を超過し部落割に於ては安藤したものの如きで二十一日の選舉に對し、殺到て小學生小使をセラにポスターに關り或は選舉運動の爲にて部落有志者九十五名に對し一人を選擧する者が一人もなかつたので大に落胆してゐる

北斗

【北斗電話】臺北州北斗郡各街庄地方議員選舉第一回の立候補屆け出は何れも定員を超過し部落割に於ては安藤したものの如きで二十一日の選舉に對し、殺到て小學生小使をセラにポスターに關り或は選舉運動の爲にて部落有志者九十五名に對し一人を選擧する者が一人もなかつたので大に落胆してゐる

東港

【東港電話】高雄州東港郡下に於ける第一回街庄協議會員立候補者は十九日午後十二時迄に定員を超過したので午後四時迄に抽籤に依り當選者を決定する筈

新營

【新營電話】新營郡下各庄は十一日の選擧に對し、殺到て小學生小使をセラにポスターに關り或は選舉運動の爲にて部落有志者九十五名に對し一人を選擧する者が一人もなかつたので大に落胆してゐる

員林

【員林電話】台中州員林郡下街庄協議會員立候補者は十九日午後十二時迄に定員を超過したので午後四時迄に抽籤に依り當選者を決定する筈

朴子

【朴子電話】立候補屆け出は十九日午後一時現在の處左の如し

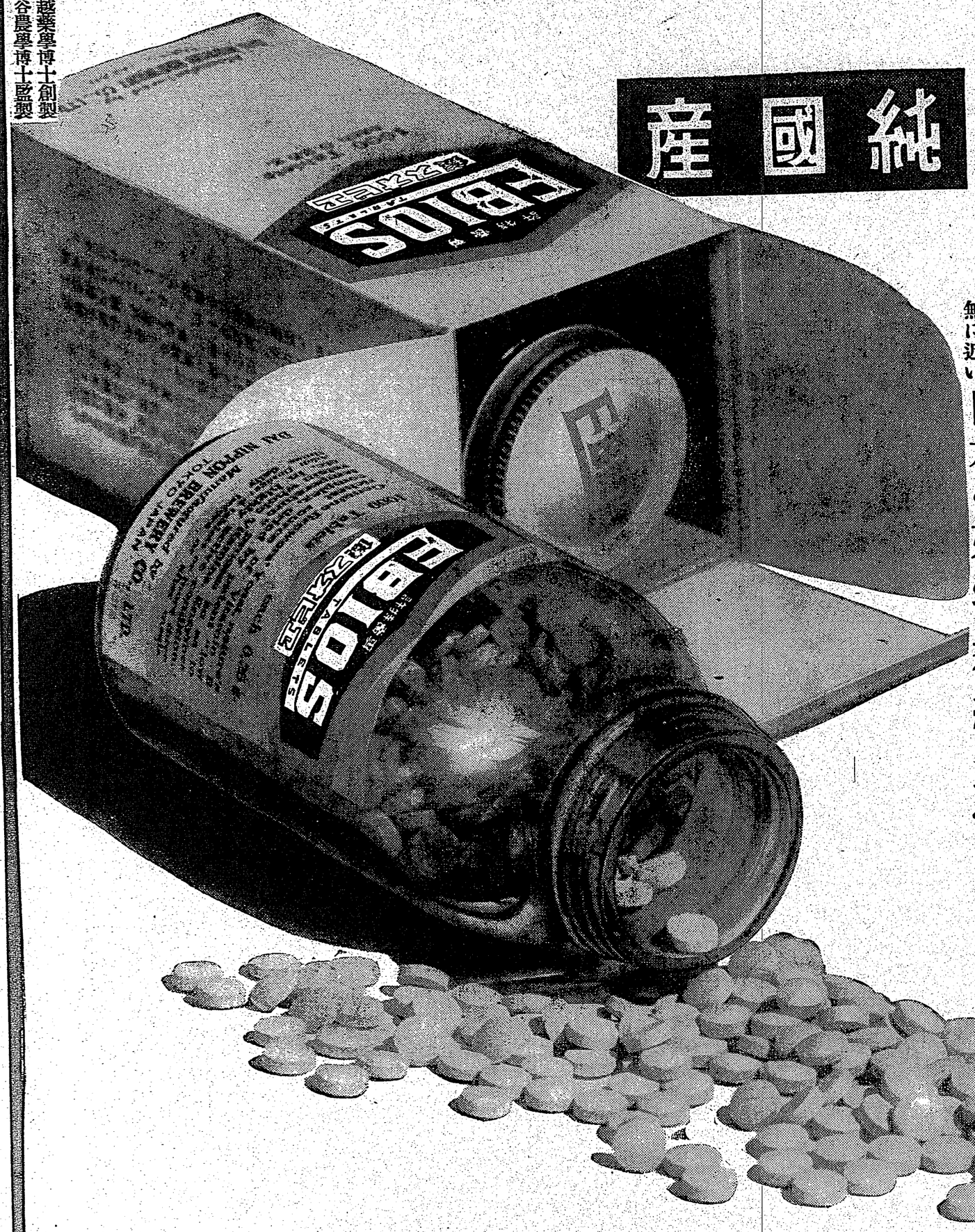
大溪	定員十名	十二
大湳	同	十
三角湧	同	十四
金面	同	七
大嵙崁	同	十
大園	同	八
大坡	同	十一
大竹	同	十六

【斗六電話】定員に滿たないのを以て締切は明午後二時迄に延期された、これでやつと一名超過となつた、斗南庄では柔伯等（自）更全榮（無）の兩名立つて二名超過となつた、これより選擧戰に入つたが各陣營共第一回に比し活氣なき模樣である、各庄庄の候補者は左の通り

北斗街	二株街	田尾庄
溪州庄	埤頭庄	竹塘庄
大城庄	芳苑庄	大埤庄
豐原		

臺中州豐原郡下豐原庄は十九日を以て締切の豫定であつたが、同日正午迄に定員三十六名を超過すること二十名、定員三十六名を超過すること十名、定員十二名を超過すること二名、定員七名を超過すること一名、定員二名を超過すること一名、定員一名を超過すること一名、定員一名を超過すること一名、定員一

馬越藥學博士創製
橋谷農學博士監製



純國產

なぜ、胃腸が弱い

米飯を完全に吸收し同化するにビタミンB複合體の助けが要るのです。ところが殆んど皆白米を好みB補給を怠る結果……

胃腸

制酸劑や下劑で一時的に加答兒を抑へることも一つの方法には違ひありません。然しより根本的の矯正法は不足したビタミンB複合體を濃厚に補ひ弛んだ胃と腸の筋肉を引き緊め、自力でその働らきを取返すことでなければなりません。

この目的にいつもエビオス療法が素晴らしい効果を擧げ得ます——あらゆる天然物中ビタミンB複合體の最高給源で、米飯に併用することにより容易にこの貴重榮養素を補ひ得るからです。

米食國民に一ばん多い慢性の胃腸病——それがわれ〳〵の體位低下に大きな導因とさへなつて居るのです。國民的な榮養劑としてエビオス錠がその効果を讃へられる所以です。

なぜB複合體が豊富？

エビオス錠はわが麥酒産額の大半を占める大日本麥酒會社の使用麥を原料とし、その中に天然に存在する豊富なビタミンB複合體を醸造工程中に悉く酵母自體に集積し得るからであります。麥酒釀造以外にも酵母をつくる方法はありますが、一たびB含量を檢討するときは、麥酒酵母はこれら酵母に比べ遙に優れて居るのです。

B₁だけなら米糠、B₁だけなら肝臟或は牛乳にも含まれますが、B₁B₂を始めB₆などのあらゆるB群を綜合的に然も濃厚に含有する天然給源はひとり麥酒酵母のみでエビオス錠がその純國産品を誇り得るのであります。」

三〇〇錠…一圓六十錢
一〇〇〇錠…四圓八十錢
（送料共）

エビオス錠

エビオス・アサヒ・サッポロ・ニユオン麥酒醸造元
大日本麥酒株式會社
東京市日本橋區本町二丁目
株式會社田邊元三郎商店
大阪市東區道修町三丁目
株式會社田邊五兵衛商店

漢口發の我旅客機 敵機に射撃さる

乗客の知らぬ間に危機を脱す

【福岡二十日發同盟】十八日午後一時二十五分頃乗客七名の外貨物を満載し漢口を出發した大日本航空會社ロッキード大井號（操縦士、酒井満作機關士、原田二雄通信士）は漢口東北約三百粁の大別山脈英山上空において蘆溝橋事變以来敵機の射撃より三百米の近距離から機關銃の射撃を受けたが幸ひ機體に二個の孔を穿つたのみで乗客は何ら知らぬ間に危機を脱し直ちに飛行場に到着したが同機は十一月十日漢口より歸還の途に就き午後一時二十五分頃河南九峰山上空に差しかかつた際突如として敵戰闘機

まづ立合から矯せ

基本的な練習に躍進を期待

全島高專相撲大會後記

第九回全島大学高專相撲大會は十九日早後一時より南門專賣局庭に於て盛に行はれ既報の如く團體戰は京帝專が連勝、個人決勝戰も關專の關脇の優勝する所となつて總戰の幕を閉ぢたが、當日の無敵を誇るまで關脇對前頭は

東（關脇）　西（前頭）
○松崎（押出し）城間
○宗像（突出し）山下
高野（寄倒し）○岩永
○南喜（掛投げ）○住田
○仲田（突放し）東濱
本間（寄切り）○高澤
田尻（押出し）○丸田
○綱島（押出し）徳永

○大將鈴木（上手投げ）大將大曾多關專の關脇では二勝から五人進勝した二強に勝を決するものらしかつたが中盤戰の惜敗で成らず、ポイントの總敗れて大將同士の決戰となり、これは關專の鈴力大將と關專の關脇とのそれでは相撲にならず遂に惜い敗戰を喫した訳である、因いて個人決勝戰に入つたがこの成績は

【一回戰勝者】東濱（突出し）鈴木（關）赤木（關）山下（寄切り）高澤（關）本間（關）宗像（關）城間（突出し）住田（關）○松崎（關）▲不戰、敗（關）南喜（關）

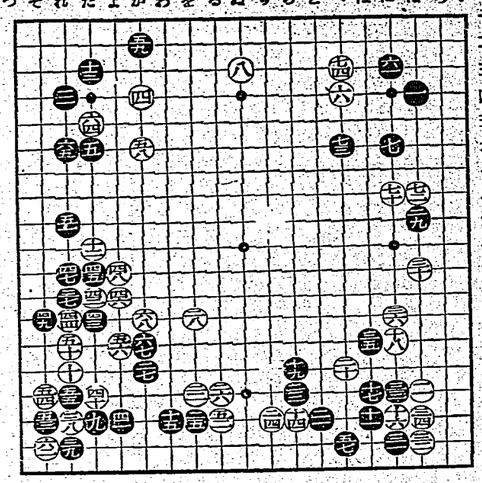
【二回戰勝者】東濱（關）赤木（關）高野（關）高澤（關）○松崎（關）南喜（關）

【三回戰】東濱（突出し）赤木　高野（寄切り）高澤　宗像（押出し）本間　松崎（寄倒し）梅澤

【準決勝】東濱（押切り）高野　松崎（寄切り）宗像

【決勝戰】松崎（寄倒し）東濱　立上るや東濱外寄に關に東土俵へ押立てる東濱の上手投をさぐるを東濱右に開けば松崎浴びせ倒す押し合ふこと暫し東濱の右を掬ふんで押を引き大きく上手投を打つて殘る左前土俵へ寄倒して松崎の勝

戰評　個人の決勝戰は東濱にとつて泣いてもよき初れ相撲であつた、最初一二三四五六七八九十十一十二十三十四十五十六十七十八十九



考圖

打擊王は川上（巨人）

職業野球リーグ戰了る

職業野球リーグ戰最終日は十九日百四十二回、安打百十六本、打率正十より後樂園球場で二試合を挙行、今季シーズンを執筆した、戰績は別表の如く巨人軍が勝率七割一分七厘をもつて優勝しリーグインゲルヒッターの栄冠を巨人軍、三割三分七厘をもつて首位打者の栄冠を獲得した川上哲君に贈られる、尚ほ最高殊勳選手は川上君に決定した

巨人軍は第一回戰に於て名古屋軍を破り、第二回戰に於て大阪軍を破り、第三回戰に於て名古屋軍を破つて三連勝を收めた、第一回戰は名古屋軍の先攻で始まり、一回表名古屋軍は三番打者伊藤の中前安打を皮切りに二番打者白石の右前安打、三番打者川上の中前安打で一點を先取し、尚ほ一死一、二塁の場面で四番打者中島の中前安打で二點を追加し、三回表名古屋軍は二番打者白石の中前安打、三番打者川上の中前安打で一點を返したが、巨人軍は三回裏一死一、二塁の場面で五番打者藤村の中前安打で一點を追加し、四回裏巨人軍は一死後六番打者水原の中前安打、七番打者中島の中前安打、八番打者千葉の中前安打で三點を追加し、五回裏名古屋軍は一死後七番打者服部の中前安打、八番打者千葉の中前安打で二點を返したが、巨人軍は六回裏一死後三番打者川上の中前安打、四番打者中島の中前安打で一點を追加し、七回裏巨人軍は一死後六番打者水原の中前安打、七番打者中島の中前安打、八番打者千葉の中前安打で三點を追加し、八回裏名古屋軍は一死後七番打者服部の中前安打、八番打者千葉の中前安打で二點を返したが、巨人軍は九回裏一死後三番打者川上の中前安打、四番打者中島の中前安打で一點を追加し、九